



プラムジャム通信 vol.1

- Cover Story ~ココは、ボクらの居場所~
- 「くにたち地域コラボ」に変わります！
- 見つけた！インキュベーション
- イベント情報 / ふじみなヒト×コト

発行：くにたち地域コラボ

Cover Story

ココは、ボクらの居場所

ある日、団地に現れた週一の駄菓子屋さん

富士見台団地の商店街の一角にある「プラムジャム」。ここは毎週土曜の午後、駄菓子屋さんに変身する。その名も『駄菓子やくにちゃん』。地域に住む60・70代のおばちゃんたちが「子どもたちがホッとできる居場所を」と、国立市とも話し合い、2006年4月に始めた。オープン以来、“週一の駄菓子屋さん”は口コミで拡がり、多いときは半日で100人近くの子どもたちがやってくる。

「おばちゃ〜ん、こんにちは〜」

挨拶はこの店のルール。この日も開店早々、小学生の男の子たちがやってきた。10円玉を握りしめ……は昭和の話。今どきの小学生はみんな好みのキャラクターが入った財布から小銭を取り出す。

「ハイ、コレとコレで70円ね！」「ボクもコレ！」

「ハイハイ、えーとお釣りは……」

おばちゃんの計算の間ももどかしく、目当てのお菓子やおもちを奪うように手に取っていく。そこは今も変わらぬ駄菓子屋の風景。

くにちゃん代表の吉村多恵子さんは「場のある心地良さ」を子どもたちに伝えたい」と話す。

「駄菓子はあくまでも子どもたちが来くなるようなツールなんです。この部屋が、子どもたちの自由に、好きなものを使って遊べる場所、ホッとできる場所であること。そしていつも大人たちがいて、あたたかく見守ってくれる場所であることが大切なんです」



なるほど、店先では5年生の女の子が通信簿について、おばちゃんと話し込んでいる。奥には、パズルやビーズが用意してあって、元小学校の先生や江戸昔遊びの名人が、“それとなく”教えている。けっして強制はしない。最初は一人遊びだった子どもたちも、次第に名人を困むように輪になっていく。

「ここは大きな茶の間なんです。誰が来てもいい。何をやってもいい。子どもも大人も一緒に居ていい場所なんです」とスタッフの河野幸江さん。もちろん、茶の間にもルールはある。駄菓子にお金を使いすぎたら叱られる。ケンカも限度を超えたらNG。3、4年生の男の子となると、取っ組み合いになることも。そんなとき河野さんは、後ろからぎゅっと抱きしめる。火消しの方法も温かい。

(2面に続く)



部屋の中ではパズルやビーズ遊び、中には宿題を一生懸命やる子も。大人たちはさりげなく見守っている。

国立市の中間支援組織「くにたち地域コラボ」が運営および拠点とするコミュニティスペースです（正式名：くにたち NPO 活動支援室）。国立市の花である梅（プラム）、ジャムセッション（即興演奏）のジャムが由来で、利用者同士がこの場で出会い、コラボレーションし、新しい活動や展開へとつながることをめざしています。



次号は10月
発行予定
☆

くにたち地域コラボに
「変わりました!!!!」

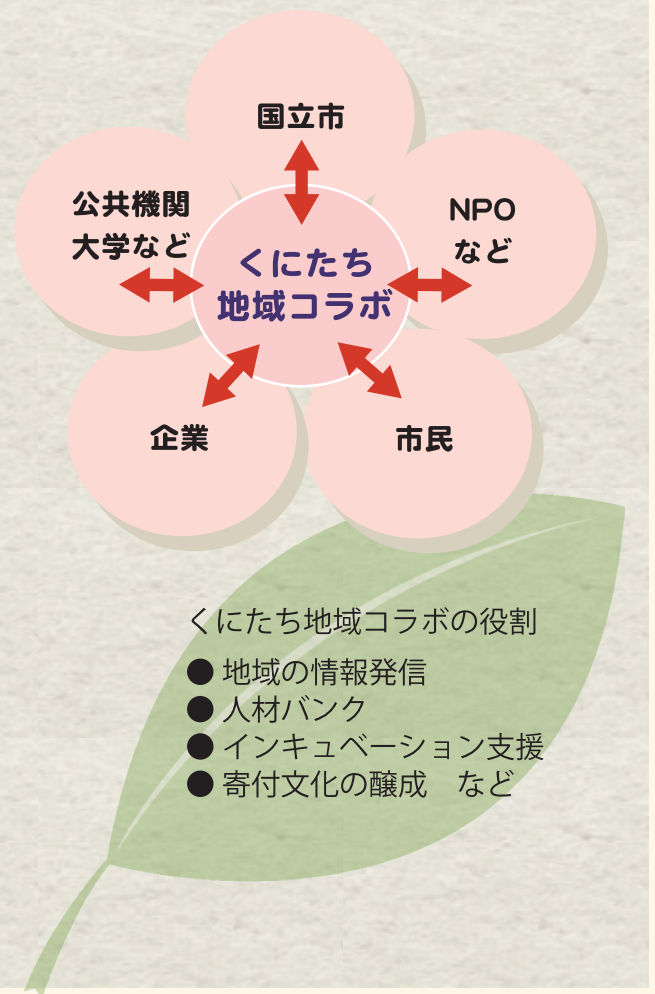
地域をつなぐ拠点として これからの中間支援組織へ

2004年4月、富士見台第一団地の一角に、市民活動支援の拠点として「くにたちNPO活動支援室」が開設されてからすでに9年。このたび「くにたち地域コラボ」が運営主体となり、次の活動に向けて新たなスタートを切りました。

これまで利用して下さっている方々はもちろんのこと、これからの新たなつながりも視野に入れ、地域に役立つ情報の発信をめざします。

会報やホームページ、メールによるニュースレターを充実させ、イベントや勉強会・相談のお知らせ、助成金情報や会員の方々が発信するさまざまな情報などをお伝えしていきたいと思っています。

昨年10月から本格始動した「コワーキングスペース・プラムジャム」も、横のつながりが広がっています。ぜひ一度富士見台第一団地102号室へお越しください。思わぬ感動の出会いがあなたを待っているかもしれません。
(事務局)



Cover Story ～ココは、ボクらの居場所～

(1面から)

縦でも横でもなく、ナナメの関係がココにはある。

今年で8年目を迎える「くにちゃん」には、中学生や高校生になっても、顔を出す子たちが少なくない。

この日もかつての常連・トワくん(中1)が現れた。

「部活が忙しくて、なかなか来られなくて」

口ぶりは素っ気ないけれど、特別メニューの100円カレーをおばちゃんに勧められると、「じゃあ1つ」と向かいに座り、笑顔で頬張る。

学校や家庭でもない、親子でもなければ、同級生でもない。いつもと少しズレた関係が、子どもたちを惹きつける。

そんなつながりに魅力を感じるのは子どもたちだけではない。昨年末からボランティアで通い続ける才原耕平さん(19)は、中学時代は引きこもりだったという。いまでは子どもたちに「アンちゃん」と慕われる存在。おばちゃんたちを手伝いながら、小学生と話したり、遊ぶようになって、「自分がやわらかくなった」と笑顔で話す。

「いまの子たちは、学校や家庭、友だちといった縦と横の関係に縛られています。それが、一旦うまくいかなくなると、とても生きづらくなってしまいます。そんなとき、世代や環境の違う人とのナナメの関係が多ければ多いほど、伸び伸びと生きられるのでは」(吉村さん)

ここはそんな関係を築ける最適な場所だ。

帰り際、一人の子が振り返って叫んだ。

「アンちゃん、来週も来る？」

気兼ねしない、ホッとできる、ナナメの関係。
まちの基本がここにある。(zoh)



才原耕平さん(19)
きっかけは高校の単位が危うくなり、担任にボランティア活動での単位取得を勧められて。



この日は子どもたちが収穫した野菜で作った特製カレーを100円で提供。



● 駄菓子や「くにちゃん」

代表：吉村多恵子
営業：毎週土曜日 13:00～17:00
(冬場は16:30まで)

※8/10・17・24は休み
問い合わせ：くにたち地域コラボ

※「くにちゃん」では、皆さまからの寄付を募集しています。

見つけた！
インキュベーション

目で聴く、耳で読む、百話のくにたち。 それが今ドキ、くにたちかげん。

くにたちかげん百話隊 さん

まちの“かげん”を聞いて電子ブックに。めざすは100話！

「地域をもっと楽しくしたい！」とシェアコンで出会った市民が、ここプラムジャムに集い、アイデアを出し合っ生まれたプロジェクト「くにたちかげん百話隊」。「くにたちかげん」とは、それぞれが感じる、国立の良いカゲンや、国立でやっていることの加減（具合）などをひっくるめて、名づけた言葉。くにたちの具合について100人の声を集めて、百話集として電子書籍化しようという試みだ。

「自分が住むまちってどんなんだろう？ どうしてみんなは国立に住んでいるの？ そんな素朴な疑問から、『じゃあ、実際に住む人に国立の自慢話を聞いてみよう』ということになって（笑）」と語るのは代表の服部いづみさん。

単に活字を電子化するだけでなく、本人の
声で読み上げ音声を付けたり、動画や音楽を
入れるなど、電子ならではの付加価値にチャ
レンジする。

服部さんほか、地元のサラリーマンやライ
ター、主婦、英語講師、大学生など、20代～
40代の市民がプロジェクトに加わり、既に8
話ほど完成。現在ネットで配信中だ。

<http://bit.ly/XZxNpZ>

プラムジャム発の市民参加型プロジェクト
「くにたちかげん百話隊」。ぜひ応援してください！



【問い合わせ】メール：kunitachikagen100@gmail.com



読み上げる箇所は赤字で表示される

< 隊員募集中です！ >

くにたちかげん百話隊では隊員を
募集中です。楽しく企画から制作、
宣伝やおはやし(?)まで。
市内在住や在勤、在学どなたでも、
関心のある方をお待ちしています。

数のくにたち

国立市では地域コミュニティが希薄！？

地域コミュニティとは住民相互の交流が行われている地域社会のこと。
つまりは「ご近所同士のつながり」だ。3.11の東日本大震災以降、よりいっ
そうその重要性が高まっている。

地域コミュニティの指標の1つになる自治会加入率（市で把握している
自治会のみ対象）でいうと、国立市では**全世帯の約34%**で、**3世帯に1
世帯しか加入していない**。高い地域では70%近いことを考えればかなり
低い数字だ。自治会は防災や防犯の活動だけではなく、盆踊り等の実施
による地域の盛り上げ役として果たす役割は大きい。

しかし一方で、地域コミュニティは自治会加入率だけでは計れない部分
もある。「くにたち地域コラボ」には、NPOや趣味のサークル団体や個人
など、多種多様な人々が登録している。自分の趣味・やりたいことから、
地域でのつながりを広げていく。そんな国立らしい地域コミュニティの
育て方、サポートしていきたい。(花*SHIN)

Q：自治会に加入していますか？



35,385世帯より算出（2013.4.1時点全世帯数）
参考：国立市生活コミュニティ課資料（届け出数）より

イベント情報

■立川子ども劇場 国立ブロック主催
子どもえんげき
「クリスマスゲーム組」発表会

8/22 (木) 13:00~15:00
矢川集会所
参加費：大人 100円
子ども 50円
親子ペア 125円



作・出演とも子どもたちによるお芝居。みんなで知恵を絞って一生懸命、練習を重ねてきた3作品を上演。くにたちブロックでは、一緒にお芝居をやってみたい仲間(小4~中学生)も随時募集中。

立川子ども劇場国立ブロック
☎ 090-6541-5678 (タケタ)

■清水ヤスロウ「コーラス事始め」

8/22 (木) 10:30~
KF まちかどホール
参加費：500円 定員：50名

童謡、唱歌から斉唱、輪唱、合唱まで、指導歴約40年の清水泰郎さんによる初級者向けコーラス講座。清水さんは井之頭合唱団の創立者兼指揮者として38年間務めるなど、コーラス指導のプロフェッショナル。音楽のまち国立で、初歩から始めたい方は絶好の機会。

☎ 0422-22-0758/090-4201-6069 (清水)

■くにたちかげん百話隊主催
「電子絵日記発表会」

8/26 (月) 10:00~15:00
KF まちかどホール
参加費：1,000円

「小学生と大学生で電子絵日記をつくらう」の成果発表会。地域のお年寄りも招き、多世代で国立の未来について語り合うプログラムも用意されている。発表会の参加はどなたでもOK。



☎ 090-6533-7707 (服部)

■ジャズトランペッター
フランク・ゴードンライブ

9/7 (土) 17:00~18:20
富士見台第一団地たまご広場



ニューヨークではアート・ブレイキーとも共演し、沖繩そして国立に移り住んだフランク・ゴードンさんが、野外音楽イベント「やっほー富士見台ジャズの夕べ〜祝！KF10周年〜」のステージに立つ。

KF くにたちピアガーデン
☎ 090-9670-7359 (高橋)

ふじみなヒト×コト

甘える孤羊、アマエル。

この頃、谷保界隈で人気上昇中の羊の「アマエル」をご存知？

コミュニティガーデン『みんな畑』で飼われている羊6歳。みんな畑を運営する、すがいまゆみさんが埼玉の牧場から譲り受けた。

「ヤギが欲しい〜、と言っていたら、ヒツジだったらタダでしかも連れて行くよ、と言われて(笑)」

出合いのきっかけはとても安易(?)だけど、二人(?)はすっかり仲良しに。元来、羊は群れで動く生き物。仲間がいないと寂しくてたまらない。母代りのすがいさんの姿がちょっとでも見えなくなると、「メエ〜、メエ〜」ともう大騒ぎ。

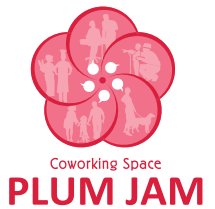
そんな甘えん坊のボクだから、付いた名前が「アマエル」。何とも愛らしいアマエルくんにぜひ一度、癒されてみては。



コワーキングスペース「Plum Jam (プラムジャム)」



つどう。
つながる。
つくりだす。



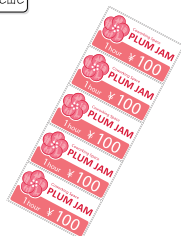
商店街の一角に生まれたコワーキングスペース「プラムジャム」。打ち合わせや会議、教室、仕事場として、お気軽にご利用ください(飲食可)。面白い人たちとの出会いからきっと何かが生まれるはず。



この看板が目印



- 【利用料金】
1時間 100円 (利用登録 500円 別途)
- 【利用時間】
13:00~17:00 (月・火・木・金)
- 【貸切利用】
9:00~12:00 (月・火・木・金)
18:00~20:00 (月・火・木・金)



お得な回数券もあります！

